

2022年度 松溪会 事業報告

長期に亘る感染対策の制限下に置かれてきた緊張の日々は、保育本来の生き活きとした日常を阻むものであった。しかし、保育の喜びの基である子どもの成長を通して、私たちも成長していく存在を忘れてはならない。2022年度は変わらぬ状況下でありながらも、共に成長することの喜びに視点を向けて取り組みを行った。

(2022年事業目標)

成長することの喜びを見出す

課題が発見できる

- 取り組む意欲をつくる
- よりよい保育を考える
- 学びを通して成長につながる

保育環境の見直し、絵本玩具の見直しを通して、各園が自主的に課題の洗い出しを行うことが出来た。同時に聖隷の複数の保育園・こども園の保育環境を視察し、ディスカッションを行うなど、自らの考えを深める機会を通して意欲的に現状の課題と向き合う姿勢が整えられた。保育環境の変化に伴い、子ども達の見せる変化は保育者の喜びとなった。未だスタートラインの段階ながら成長の階段を焦ることなく歩み続けたい。

(法人経営、施設運営の取り組み)

経営的な課題であったおかさきこども園が運営する学童保育の赤字課題について、学童に通う児童のうち、障害児に該当する支援児が複数名含まれていることが運営上の課題となっていた。湖西市と協議の上、障害児支援加算の補助が計上されることとなった。

会計事務所の委託から新会計システムを導入し、運用を開始した。また、年数経過し反応が遅くなったパソコンについて大幅に買い替えを行い、職員負担の軽減を行うとともにパソコンの保守管理料金の適正化を行うことが出来た。これからも進むICT機器を活用した保育を行うための新保育システムへの変更について検討を開始し2023年中での実施を目標とした。

職員においてもいままでの研修に加えて、新人研修、2年目・3年目研修、聖隷保育学会、保育研修のウェブ参加を行った。職員研修については4年目以降の職員について取り組む課題も認められた。保育職員処遇改善加算の要件となる研修受講も進められたが、保育キャリアラダーによる取り組みを進めることとし、準備が進められた。これからの取り組みを通して学校関係の理解と実習生の受け入れが進み、両園で4名の新規採用者を迎えることが出来た。

おかさきこども園での事業は、保育事業、放課後児童クラブ、市委託こども食堂、各教室の貸し出し(自主事業)と多岐に及ぶ中で、感染下における放課後児童クラブの利用はある程度減少した。また、市内4カ所で行っていたこども食堂も湖西市内で唯一のこども食堂として継続している。湖西市では年度当初に今後市内で毎年100人づつの児童が減少することの予測が示され、全国的な待機児童減少の緊張感が身近なものとなった。故に2023年度の湖西市の0歳児入園は今までにない数字として受け止めることとなっている。

2022年度は次年度に控えたこども基本法をはじめとする新たな施策に表面上だけ対応するのではなく、保育職員ひとりひとりに目を向け、こども達、職員と共に成長の喜びにあずかる年度として取り組みました。直ぐに成果が得られるものではありませんが、これからも取り組んでいく大切な取り組みとして一歩を踏み出した年度として報告させていただきます。